

■ OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社フジテレビジョン 様

OnAir 2500 -12



生放送送出用 VB サブを新設



株式会社フジテレビジョン
技術局 制作技術センター 制作技術部
斎藤 由佳

2012年、フジテレビの本社屋内に新たに、“VBスタジオ”を作りました。生放送番組の送出を主目的とした、副調整室のみの小規模なスタジオです。フジテレビには、地上波・CS3チャンネル・BSがあるのですが、番組収録でスタジオが埋まってしまった場合に送出サブが不足する恐れがあり、新たな送出サブの設備を望む声が上がっていました。

このスタジオの用途として、

- ①野球やサッカー等、スポーツ中継の生送出。
- ②バラエティ番組など、編集とMAIによるパッケージの完成がAPC納品に間に合わなかった場合のVTR生送出。

といったものを想定して設計することにしました。



送出サブなので、マイクの入力はアナブースくらいしかありません。ラインレベルの入力素材は、VTRのPlay Backと、中継先となるRemote回線、音効素材（CD、MO）、TELなどです。音声のシステムとしては小規模ですが、生放送ではなんといってもシステムの信頼性が高いことが大前提です。そして、中継やVTRなど、誰かが一生懸命制作した素材を一本のフェーダーで送出する最終段ですから、音のクオリティは絶対に妥協できません。さらにシステムの安全性のために電源の二重化も絶対条件でした。ただし、スポーツ番組や音楽番組等、現場でサラウンド制作したものを生送出することもあるため、送出サブとしてサラウンド機能を持たせるかどうかについては少し悩みました。しかし今回は限られた予算の中で、ほぼ送出専用とも言えるコンパクトなシステムを構築するという命題があったため、思い切ってサラウンド機能は割愛することを決め、小規模でもこの条件に合致する、放送局のメイン卓としてふさわしいコンソールを導入したい！という気持ちでいたところ、OnAir 2500にたどり着きました。フジテレビでは、本社屋内のスタジオと、別棟の湾岸スタジオで、可搬型も含めると既にVistaシリーズの導入実績が6件あり、加えて報道のナレーション収録ブースにはOnAir 2500が2台導入されており、STUDER製のデジタルコ

ンソールの音質の良さと操作性は定評がありましたので、VBスタジオのメインコンソールとしてOnAir 2500を導入することに不安はありませんでした。小さなサブに収めるのに、入出力コネクタを本体背面に装備したオールインワン仕様は限られたスペースを有効に使えると好都合でしたし、結果的に価格を比較的リーズナブルに抑えることができたので、隣にもう1台小型のデジタル卓を置くことで、システムの自由度を広げています。コンソールトラブルの緊急時に乗り換えるエマージェンシーコンソールとして、あるいは入力が足りないときのPre Mix卓として、など状況に応じた使い方ができると考えています。

メインスピーカーは、PSI-Audio A-21M Blackを採用しました。STUDERブランドで出ていた頃から、ニアフィールドモニターやサラウンド制作のモニタースピーカーとして、そのフラットな音色がフジテレビ音声ではひそかに定番ようになっていたので、全く同じユニットの使われているA-21Mを採用できたことは、安心してミキシングできる環境をつくることに大きく貢献できたと思います。

今回のシステムは、まだ運用を開始して間もないですが、日ごろから馴染みのあるSTUDERのヒューマンインターフェースとモニターしやすい環境で、安心してオンエアすることができるスタジオになりました。今後の運用が楽しみです。